

日本植物誌資料（其一）

奥山春季

S. OKUYAMA: Materials to the Flora of Nippon (I).

○「日本百科大辭典」中ノ伊藤博士擔當植物記事評論

理學博士伊藤篤太郎氏ハ三省堂發行、日本百科大辭典（1908-1919）ノ植物學ノ一部ヲ擔當サレ種々ノ新見解ヲ發表、數種ノ新種ヲサヘ記載サレタガ、特殊刊行物デアツタメカ或ハ記相文ガ和文デアツタト云フ理由カラカ（英文ヲ添ヘタモノモアルガ）學界カラ久シク無視サレテ居タ様デアル。然シ早田博士ハ1920年既ニ同書ノ組合セ名 *Abies Kawakamii* (HAYATA) T. ITO ヲ採用シ、1925年刊行ノ日本植物總覽モコレヲ使ツテ居タ。牧野博士亦1932年同書ニ於テ創定サレタ學名ヲ異名トシテデハアルガ引用シテ居ラレ、1940年ニハコレヲ基ニシタ新組合セ名ヲツクラレタ。然シコレヲ全面的ニ採用シタノハ本田博士ノ日本植物名彙（1939）ガ最初デアル。

伊藤博士蒐集標本ハソノ全部ヲ近年東京科學博物館ニ寄贈サレタノデアルガ、自分ハ幸ソノ整理ニ當ツタ關係カラ百科大辭典中ニ記載サレタ種類ニ就テ原標本ト共ニ吟味スル事ガ出來タ。以下ハソノ檢討結果ノ報告デアル。

終ニ故伊藤理學博士ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表スルモノデアル。

1) **Anemone flaccida** var. **gracilis** T. Ito in Encycl. Jap. I, p. 593 (1908) — HONDA, Nom. Pl. Jap. p. 91 (1939) **ぎんさかづきいちげ**

尾張名古屋ノ博士ノ自宅ニ栽植セルモノデ明治27年（1894）4月16日腊葉ニシタ一枚ノ標本ガアル。ラベルハ二枚貼り付ケテアリ、ソノ古キ方ニハ心皮ヲ2個解剖ノタメ取り出シタトアルガ新シイ方ニハ“一花ノ心皮二個（Carpel 2, in each flower）”トアリ、コノ點ガ本植物ノ特徴ノ様ニモ受取レルガ然シ標本ハ2心皮デハナク5箇ヲ明ラカニ數ヘル事ガ出來ル。原文ハ“全體小さくして細く、花も小にして、萼片六個乃至十二個あり（Smaller and slender; flowers smaller; sepals 8-12）”トアルダケデ心皮ニハフレテ居ナイカラ或ハ下方ノラベルニ記入スル折ノ錯覺デハナカツタラウカトノ想像モ可能ナワケデアル。

尙原文ヨリスレバ萼片6-12箇（英文ニハ8-12）ト云フ點ガ變種トシテ區別サレタ特徴ト考ヘラレルガ標本ノ萼片ハ6片アツテ此ノ點原文ト一致シナイ。

標本ニハ博士ノ手記ガアリタイプ標本トモ考ヘラレルガにりんさうヨリ區別スベキ特徴ヲツカム事ハ困難デアル。

- 2) **Brassica juncea** var. **purpurascens** T. Ito, l. c. II, p. 135 (1909)—HONDA, l. c. p. 115 (1939) = *B. cernua* var. *Chirimenna* MAKINO in INUMA, Somoku-Zusetu (Iconogr. Pl. Nipp.) ed. 3 III, p. 906 (1913!)—HONDA, l. c. p. 115 (1939) = *B. juncea* var. *Chirimenna* MAKINO, Illust. Fl. Nipp. p. 521 (1940) **ちりめんな・しゅんふらん・いらな**

標本ハ見當ラナイ。文獻ニヨツテ記載サレタモノト想像サレル。古クカラ本草書ニハ載ツテ居タ。大和本草(1709)ノ芥ノ大葉芥條下ニ“又イラナト云芥アリ葉ノ兩傍ニ刻アリ葉色微紫ナリ云々”トアリ又本草綱目啓蒙(1803)ニモ同ジ意味ノ記事ガアル。伊藤博士ノ記文ハ“變種「いらな」(花芥・花紫芥)[var. *purpurascens* T. Ito]ハ、其葉微しく紫色を帯び、邊緣に細缺刻多し”デ前記二書ト略同様デアル。牧野博士ハ草木圖說(第三版) Vol. III. p. 906 (1913)ニ於テちりめんな・しゅんふらん・花芥ニ對シ *Brassica cernua* var. *Chirimenna* MAKINOノ學名ヲ與ヘテ居ラレルガ日本植物圖鑑(1940) p. 521ノおほがらしノ記文中ニちりめんな一名しゅんふらん var. *Chirimenna* MAKINOトシテ出テ居ル。又草木圖說ノおほがらしノ條下ニ“一種莖葉ノ形略同フシテ缺刻鋸齒尖銳ニシテ暗紫暈ヲ帶ブルアリ辛味稍微ナリ”ト云フ記事ハ上記ノ大和本草等ノいらなニ一致スル。コノ點實物ヲ檢シテ居ナイ自分ニハ未解決ノ問題デアアルガ、牧野博士ノ記事カラ推スト此ノ兩種ハ同一種ヲ指スモノノ様ニ考ヘラレル。尙日本植物名彙(1939)ニひらなトアルノハいらなノ誤植デアラウ。

- 3) *Coix Lachryma-Jobi* var. *macrocarpa* T. Ito, l. c. V. p. 660 (1911) = **C. L.** var. **maxima** MAKINO in Bot. Mag. Tokyo XX, p. 11 (1906) **おほじゅずだま・おにじゅずだま**

タイプ標本ハ見當ラナイ。恐ラク文獻ニヨツテ記載サレタモノデアラウ。古クカラ本草書ニハ載ツテ居タ。原文ニハ“果實尋常より大にして圓く、横に扁くして堅にひだあり、色も同じ。殼は甚だ硬し。熟すれば黑色となりて光澤あり”ト記ス。

- 4) *Colocasia antiquorum* var. *Toonoimo* T. Ito, l. c. p. 727 (1908) = *C. antiquorum* f. *purpurea* MAKINO in INUMA, Somoku-Zusetu, ed. 3. IV, p. 1253 (1913!) = *C. antiquorum* var. *esculentum* f. *purpurea* MAKINO in Journ. Jap. Bot. III, p. 15 (1926) = *C. antiquorum* var. *esculentum* f. *Toonoimo* HONDA,

l. e. p. 460 & p. 506 (1939) = **C. esculenta** f. **Toonoimo** (T. ITO) MAKINO in Zissai-Engei, XXVI, p. 996 (1940) たうのいも

“長大にして高さ三四尺となり、葉柄紫赤色を帯ぶ。故に「あかがら」とも云ふ。塊莖最も肥大にして、子芋を生ずること多からず。美味にして、全體に葷味少なし。故に葉柄も亦煮て食ふべし。乾し貯へて蕨とす”(原文)

尙中井博士ハ *Colocasia Tonoimo* NAKAI ノ名デ 東亞植物圖説 第三卷 第三輯 Tab. LXXXV = 圖説詳細ナ記相文ヲ添ヘラレタ。

5) *Colocasia antiquorum* var. *Yatsugashira* T. ITO, l. e. I, p. 727 (1908) = *C. a.* var. *confluens* MAKINO in INUMA, Somoku-Zusetu, ed. 3, IV, p. 1253 (1913) = *C. a.* var. *multifolia* MAKINO in Journ. Jap. Bot. I, p. 4 (1916) = *C. a.* var. *esculentum* forma *m.* MAKINO, l. e. III, p. 15 (1926) = *C. a.* var. *e.* forma *Yatsugashira* HONDA, l. e. 506 (1939) = **C. a.** forma **Yatsugashira** (T. ITO) MAKINO in Zissai-Engei, XXVI, p. 996 (1940) やつがしら

“「たうのいも」に似て塊莖より數條の吸枝を叢生し、又一子芋より八九科叢生して魁頭數個を叢生し、其狀他の變種と異なり”(原文)。氏ノたうのいも及ビやつがしらハ共ニ文獻ニヨツテ記載サレタモノト考ヘラレル。標本ハナイ。

6) **Conandron minor** T. ITO, l. e. I, p. 681 (1908)—HONDA, Nom. Pl. Jap. p. 314 (1939) こばのいはたばこ・こいはたばこ

“紀伊の熊野に産す。葉は尋常の「いはたばこ」より小にして長橢圓形をなし、鋭頂にして細鋸齒縁をなす。花は少數にして紫色、花冠の裂片は濶大なり”ト云フ簡單ナ記相文ヲ通シテ云ヘバいはたばこ *Conandron ramondoides* SIEB. et ZUCC. ヨリ區別スル——少クトモ種トシテ分ツ——必要ハナイト考ヘリ。タイプ標本ト思ハレルモノハ見當ラナイ。

7) *Corydalis Keiskeana* T. ITO, l. e. I, p. 1272 (1908) = HONDA, l. e. p. 111 (1939) = *C. triflora* OHWI in Journ. Jap. Bot. XII, p. 332 (1936) = *C. triflora* var. *Arakiana* OHWI in Act. Phytotax. & Geobot. VI, p. 55 (1937) = **C. pallida** (THUNB.) PERS., Syn. Pl. II, p. 270 (1807); OHWI in Act. Phytotax. & Geobot. VI, p. 152 (1937) きんくおげまん (T. ITO 1908) ふたごげまん (OHWI 1936).

“本州・九州の山地に産す。繊細なる草本にして、根際より數多の枝を分ちて叢生す。枝は地に塌れ、上部は上向す。葉は軟くして羽狀に分裂して長柄を具

ふ。裂片は卵形又は楔状卵形にして分裂す。四五月の頃枝端に二・三花又五花を攢簇す。花は稍、黄色にして、長さ一糎ばかり、短き距あり、長さ二・三糎、微しく下方へ彎曲す。五月の初、花と共に蒴あり。長一糎ばかり、長橢圓狀線形にして上端に纖弱なる花柱ありて其頂に二裂せる柱頭を冠す。花梗の長さは蒴の半分ばかりに過ぎず。内に二・三個の種子あり。長さ一糎、黒色にして圓く、平滑にして光澤あり。” タイプ標本トオボシキモノガアリ記相文＝ヨク一致スル。ソノ手記ノ學名ハ他ノ名テ n. sp. トナツテ居ル。コノ標本ノ産地ハ薩摩ノ鹿児島ト蒲生ノ間 (Prov. Satsuma inter Kagoshima et Gamō, 3 May 1894) デアル。

8) *Daphne odora* var. *fasciata* T. ITO, l. c. VII, p. 147 (1916) = **D. kiusiana** var. **fasciata** HONDA, l. c. p. 232 (1939) **ししこせうのき**

“莖と枝とは肥大して匾平となり、いはゆる帯花 [fasciation] の状態をなし、葉も稍、圓し。” 園藝變種ノ由。原標本ハ見當ラナイガ品種 (forma) 格ノモノデアラウ。

9) *Idesia polycarpa* var. *albobaccata* T. ITO, l. c. I. p. 368 (1908) sphalm. *Allodaccata* = *Cathayaia polycarpa* var. *albobaccata* HONDA, l. c. p. 231 & p. 504 (1939) **しろみいぎり・しろみたうせんだん**

タイプ標本ハ見當ラナイ。恐ラク文獻＝モトヅケルモノデアラウ。既＝博士ノ祖父＝當ル伊藤圭介翁著「小石川植物園草木圖説」第二卷 (1884) ノたうせんだんノ解説文中ニモ「又一種白實ノ者アリ」ト出テ居ル。

10) *Kadsura japonica* var. *variegata* T. ITO, l. c. IV, p. 881 (1910)—HONDA, l. c. p. 106 (1939) **にしきかづら**

Kadsura japonica var. *fructu alba* T. ITO, l. c. p. 881 (1910) = **K. japonica** var. **albifructus** HONDA, l. c. p. 106 & p. 509 (1939) **すみしゃうかづら** (水晶葛)

“此植物 (註、さねかづら) の園藝的變種に、葉薄く小さき白斑ありて、恰も霜のかゝりたるが如きものあり。冬に至れば紅葉して頗る美なり。故に「にしきかづら」(花戸) [var. *variegata* T. ITO, nov. var.] (新變種) と稱す。又尋常の品にして、葉に白斑あるものあり。變種白實のものを「すみしゃうかづら」(水晶葛) [var. *fructu alba*, T. ITO, nov. var.] (新變種) といふ”。

タイプ標本ハ見當ラナイ。

11) *Lycium chinense* var. *spinosum* T. ITO, l. c. III, p. 450 (1910)—HONDA,

l. c. p. 303 (1939) = **L. chinense** MILL.; NAKAI, Fl. Sylv. Kor. XIV, p. 61 (1923) t. XV et Trees & Shrubs ed. 2, p. 485 (1927) fig. 227. **くこ**

くこ = 二種アルト云フ事ハ既 = 本草書 = 見エル。伊藤博士ノ原文ハ殆ソド本草綱目啓蒙ノ記事 = 同ジデ「たうぐこ」は一名「てうせんぐこ」といひ、支那ノ原産にして、我國に於ては古來これを傳植す。葉は大にして、長橢圓形をなし、實は圓くして大なり。又微しく長くして尖るものあり。紅熟して苦味少なく、甘味多し。又尋常の品は「おにぐこ」にして(中略)諸國に自生多し。葉は小さくして枝に針多し。果實は小にして長し。紅熟す。味苦し”尙 *L. chinense* var. *spinosum* T. ITO ノ手記アル標本(薩摩鹿兒島産)ガアルガコノ記事デモワカル様 = おにぐこハ即チくこデアル。北川博士ノ説 = 従ヘバ(大陸科學院研究報告 Vol. IV No. 7, pp. 86-87)我國ノくこ(おにぐこ)ハ *L. rhombifolium* DIPPEL デ伊藤博士ノたうぐこ *L. chinense* var. *typicum* T. ITO, l. c. III, p. 450 (1910) ハ *L. chinense* MILLER ながばくこ = 當ルモノト考ヘル。

12) *Najas nipponica* T. ITO, l. c. I, p. 698 (1908) = *N. graminea* DELILE; MIKI in Bot. Mag. Tokyo XLIX, p. 774 (1935) = *N. graminea* var. *serristipula* MAKINO, Nippon-Syokubutu-Zukan (Illust. Fl. Nipp.), p. 888 (1940) = **N. graminea** var. **serristipula** (MAXIM.) NAKAI, Fl. Kor. II, p. 275 (1911). **ほつすも**

タイプ標本ハ尾張八事山産、明治34年(1901)8月10日ノ採品デアル。學名ハ此處 = 列舉シタ様ナ異名關係ヲ認メテヨイカハ多少疑ガアル。今後ノ研究ニ待ツ。和英兩文ニテ記載サレタ。次 = 英文ヲ轉載シテ置ク。

“Stem filiform, 12-24 cm. or more long; leaves filiform, 25 mm. long $\frac{1}{4}$ mm. broad, with numerous minute marginal teeth; leaf-sheath auricled, auricular lobes 2 mm. long, subtriangular, with many minute marginal teeth; seeds more than 2 mm. long. Hab. Japan: Hondo. prov. Owari, T. Ito)”.

13) *Oxalis shinanoensis* T. ITO, l. c. II, p. 818 (1909) = **O. corniculata** f. **erecta** MAKINO in IINUMA, Somoku-Zusetu ed. 3 II, p. 664 (1910) et Illust. Fl. Nipp. 399. fig. 1197 (1940) = *O. corniculata* var. *trichocaulon* LÉVEILLÉ in FEDDE, Rep. Sp. Nov. VII, p. 284 (1910) = *O. repens* f. *erecta* MASAMUNE, Prel. Fl. Yakusima p. 87 (1929) = *O. repens* var. *erecta* MASAMUNE in Journ. Soc. Tropic. Agric. II, p. 32 (1930) = *Xanthoxalis corniculata* var. *erecta* HATUSIMA ex NAKASHIMA in Hukuoka-Hakubutu-Zassi II, p. 79 (1937). **たちかたばみ**

伊藤博士ノタイプ標本ト認めベキモノハ信州木曾産、明治 24 年 (1891) 8 月 8 日ノ採品デアル。たちかたばみニ對シテ學名ヲ與ヘタノハ伊藤博士ガ最初デアル。原文ハ“尋常の「かたばみ」に似て、莖は針金様をなし匍匐せずして直立す。葉も「かたばみ」の葉に似たれど、輪生をなすことあり。托葉は小なり。夏季葉腋より繊細なる花枝を抜き、頂に一花又は二花を着く。花は小にして、花瓣は黄色なり。葯は圓柱形にして、先端に向ひて次第に尖る。毛茸あり”

14) *Parnassia Yudzuruana* T. Ito, l. c. V, p. 864 (1911) [ut nov. sp. vel var.] = *P. Yudzuruana* T. Ito ex HONDA, l. c. p. 133 (1939) = **P. japonica** NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XL, p. 470 (1926). おほしらひげさう

コノ學名ノ發表形式ヲ吟味スルト頗ルヤ、コシイガ又頗ル興味ヲ覺エル。恐ラクコノ様ナ形式ニテ學名ヲ發表シタ學者ハ他ニアルマイト考ヘラレル。即チしらひげさうノ條下ニ次ノ如キ記事ガアル。

“虎耳草科の多年生草本にして「うめばちさう」(梅鉢草) 屬の一種。「はなつゞみ」「はくさんなでしこ」「はななでしこ」ともいふ。我國中部と西南部との山野向陽漸洳の地に産す。全體平滑にして、數本の莖を叢生す。莖は直立し、高さ七八寸より一尺餘に及ぶ。——(中略)——雄蕊は五本ありて、葯は大なり。雄蕊は四箇の心皮より成る。以上の記載は伊藤謙が信濃の戸隠山に於て採收せる數多の標本を基礎とせり。「しらひげさう」には大形、小形の二品あり。而して前の戸隠産のものは大形の品なり。大形の品は獨り花葉等の肥大なるのみならず、花瓣の細裂片の如き、これを小形の品に比すれば長くして其數多きを以て、これを新種若くは新變種と認め「おほしらひげさう」(新名) (*P. Yudzuruana* T. Ito, nov. sp. vel var.) と命ずべし”

即チしらひげさう下ノ記相文ハ戸隠山産ノ大形品おほしらひげさうダト云ハレル。而シテ新稱おほしらひげさう下ニ記サレタ *P. Yudzuruana* ハ學名ノ體載ハ具ヘテ居ルガ nov. sp. vel var. トハツキリ斷ツテアル點ヲ考慮スレバ種或ハ變種トシテノ決定的見解ハ示サレテ居ナイト見ル事ガ出來ルカラ簡單ニ *P. Yudzuruana* T. Ito, nov. sp. ト解釋スル事ハ出來ナイト思フ。

一方コレトハ別ニ中井博士ハ植物學雜誌第 40 卷 470 頁ニ於テ *Parnassia japonica* NAKAI ノ名デラテン文ニテ記載發表サレタ。而シテ從來後者ノ名デ呼バレテ居タガ日本植物名彙ハ *P. Yudzuruana* T. Ito ヲ採ラレタケレドモ上述ノ如ク *P. Yudzuruana* ハ頗ル曖昧ナ學名デアルト云フ點カラコレヲ廢棄シ、正式ニ發表サレタ *P. japonica* ヲ採ルノガ穩當ナ解決方法デハナイカト思フ(但シ種説ノ場合)。

尙しらひげさうヲ Himalaya 産 *P. foliosa* HOOK. et THOMS. ノ變種ト考ヘタ場合、伊藤博士ガ百科大辭典 (p. 864) = 記シタ學名ヲ *Parnassia foliosa* var. *nummularia* T. ITO (= *P. nummularia* MAXIM.) ト解釋出來ルカラ、コレト同一ノ combination (植物學雜誌 XL. p. 470 參照) = 先ダツ事 15 年ト云フ事ニナル。尤モ日本ノモノヲ *P. nummularia* MAXIM. in Bull. Acad. Petersb. XI, p. 430 (1867) ヲ採用スル場合ハ問題ニナラナイ事デアアルガ。タイプ 標本ガ見當ラナイノハ甚ダ残念デアアル。

15) *Perilla nankinensis* var. *viridis* T. ITO, l. c. IV, p. 1419 (1910) = *P. oimoides* var. *crispa* f. *viridis* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo XXVI, p. 78 (1912) = *P. frutescens* var. *crispa* f. *viridis* MAKINO in Journ. Jap. Bot. III, p. 7 (1926) = *P. acuta* f. *viridis* NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XLII, p. 474 (1928) = **P. frutescens** var. **acuta** f. **viridis** KUDO, Lab. Sino-Jap. p. 74 (1929). **あをじそ**

タイプ 標本ナシ。ヤハリ文獻カラ記載シタモノデアラウ。“葉形「ちりめんじそ」に似て表裏共に綠色、莖も亦綠色なり。花は白色なり”(原文)

16) *Plantago major* var. *folioscopia* T. ITO, l. c. II, p. 193 (1909) = *P. major* var. *asiatica* f. *rosea* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo XXI, p. 158 (1907) = *P. asiatica* f. *folioscopia* (T. ITO) HONDA, l. c. p. 316 & p. 513 (1939) = **P. asiatica** f. **rosea** MAKINO, apud Cat. Sem. et Spor. Hort. Bot. Univ. Imp. Tokyo 1938 p. 33. **やぐらおほぼこ**

タイプ 標本ハ見當ラナイ。

17) **Polygala Reinii** var. **angustifolia** T. ITO, l. c. II, p. 612 (1909)—HONDA, l. c. p. 190 (1939) = *P. Reinii* var. *angustifolia* MAKINO in Journ. Jap. Bot. III, p. 18 (1926). **ながばかきのはぐさ**

タイプ 標本ハ見當ラナイ。恐ラク文獻ニモトヅイタモノデアラウ。原文ニハ“細葉にして長さ三四寸、巾五分ばかりあり。”トアルガコノ細葉品ノ事ハ本草綱目啓蒙卷之八、巴戟天ノ條下ノかきのはぐさノトコロニ“又細葉ナル者アリ葉潤サ五分許長サ五寸許”ト出テ居リ慾齋翁ノ草木圖說ニモ啓蒙ノ記事ヲ引用シテ居ルガ“余未見其種”ト斷ツテアル。牧野博士ハ高野山ノモノニ對シ 1926 年伊藤博士ト同一學名ヲ與ヘラレタ。又久内清孝氏ハ遠州秋葉山カラ報告シテ居ラレル。科學博物館ノ腊葉庫ニハヤハリ高野山ノ標本ガアル。

18) **Prunus Mume** var. **dulcis** T. ITO, l. c. I, p. 1048 (1908)—HONDA, l. c. p. 163 (1939). **あんずうめ・もちうめ**

標本ハ見當ラナイ。ヤハリ文獻ニヨツタモノデアラウ。あんづうめノ事ハ本草綱目啓蒙ノ梅ノ部ニモ載ツテ居ル、伊藤博士ノ記文ハ“單瓣にして淡紅色花實共に「あんず」(杏)に似て酸味少なし”デアル。

19) *Quercus dentata* var. *angustifolia* T. ITO, l. c. II, p. 743 (1909)—HONDA, l. c. p. 53 (1939). **ほそばがしは**

タイプ標本ト思ハレルモノハ見當ラナイ。“葉形細長にして「くぬぎ」の葉に似たり。亦培養の變種なり”トアルガコレ亦文獻ニヨツタモノデアラウ。松村任三博士ニヨレバ(植物學雜誌 V. p. 8) 草木圖說木部卷之八(寫本) 十一葉ニほそばがしはノ記事ガアリ、櫟葉ノ如ク細長イ花戸傳來ノ一種ダト云フ事デアル。

20) *Sagittaria sagittifolia* f. *gowai* T. ITO, l. c. II, p. 228 (1909) = *S. trifolia* var. *typica* f. *suitensis* MAKINO in Journ. Jap. Bot. I, p. 36 (1918) = *S. trifolia* f. *gowai* HONDA, l. c. p. 386 & p. 515 (1939). **すいたぐわゐ・まめぐわゐ**

“水田中に多く自生す。尋常の「くわゐ」に似たれど、小さくして高さ一・二尺、葉も狭細、花も稍小なり。球は至て小さくして、大なるも無患子の大きさほどなり。小なるは豆粒の如し。採りて食用とす。攝津の吹田村にて多く植ゑ出す。故に「すいたぐわゐ」の名あり”タイプ標本ハ見當ラナイ。ヤハリ文獻ニヨツテ記載サレタモノデアラウ。

21) *Thalictrum tuberiferum* f. *albo-variegatum* T. ITO, l. c. II, p. 1067 (1909)—HONDA, l. c. p. 102 (1939). **しもふりからまつ**

“葉に白斑あり”ト云フみやまからまつノ一形デアアルガタイプ標本ハ見當ラナイ。

22) **ささげノ類**。伊藤博士ハじふろくささげ其他ニ對シ新名ヲ與ヘテ居ラル。コノ邊ノ學名ハ頗ルヤ、コシイガ BAILEY 及ビ牧野博士ノ説ヲ參照シテ整理シテ見ルト次ノ様ニナル。

Vigna sinensis var. *sinensis* f. *Dschiuroku* T. ITO, l. c. IV, p. 804 (1910) = *V. Catiang* var. *sinensis* f. *sesquipedalis* MAKINO, Illust. Fl. Nipp. 404 (1940) = *V. sesquipedalis* (L.) W. F. WIGHT; MAKINO in Zissai-Engei XXV, p. 1103 (1939) et l. c. XXVII, p. 221 (1941). **十六ささげ**

Vigna sinensis var. *sinensis* f. *purpurea* T. ITO, l. c. IV, p. 804 (1910) = *V. sesquipedalis* f. *purpurea* (T. ITO) OKUYAMA, comb. nov. **あかささげ**

Vigna sinensis var. *Catiang* f. *variegata* T. ITO, l. c. IV, p. 804 (1910) = *V. Catiang* f. *dichrosperma* MAKINO in INUMA, Somoku-Zusetu ed. 3. III, p. 945 (1913) t. 792 et Illust. Fl. Nipp. p. 404 (1940) in text. = *V. sesquipedalis* var. *dichrosperma* MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. p. 761 (1925) = *V. sinensis* var. *Catiang* f. *dichrosperma* MAKINO in Journ. Jap. Bot. VIII, p. 19 (1932) = **V. Catiang** f. **variegata** (T. ITO) OKUYAMA, comb. nov. やっこささげ

23) *Xanthoxylum piperitum* var. *Asakurasanzho* T. ITO, l. c. IV, p. 1059 (1910) = *X. piperitum* β. *inerme* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo XXVI, p. 82 (1912) = **X. piperitum** f. **inerme** MAKINO in Zissai-Engei XXVI, p. 898 (1940). あさくらざんせう

標本が見當ラナイ點カラヤハリ文獻ヲモトニシテ記載サレタモノト考ヘラレル。“尋常のものより葉大にして、刺甚だ少なし。果實の大き尋常品の三倍ありて、辛味強く、香氣高し、もと但馬朝倉より出ずるを以て名く。云々”（原文）

24) 新組合セノ學名

Abies Kawakamii (HAYATA) T. ITO, l. c. II, p. 167 (1908)—HAYATA, Icon. Pl. Formos. IX, p. 108 (1920)—MAKINO & NEMOTO, Fl. Jap. ed. 1, p. 1527 (1925)—MASAMUNE in KUDO's Nippon-Yuyozyumoku-Bunruigaku ed. MASAMUNE, p. 20 (1941) かはかみしらびそ・にひたかとどまつ

Betula utilis var. *japonica* T. ITO, l. c. II, p. 952 (1909) = **B. nikoensis** KOIDZUMI まかんば・なかばのだけかんば

Betula utilis var. *subcordata* T. ITO, l. c. II, p. 952 (1909) = **B. Ermanii** var. **subcordata** KOIDZUMI あかかんば

Brassica campestris var. *chinensis* T. ITO, l. c. I, p. 175 (1908) excl. syn. = **B. campestris** subsp. **Napus** var. **nippo-oleifera** MAKINO あぶらな

Brassica juncea var. *cuneifolia* (ROXB.) T. ITO, l. c. V, p. 225 (1911) = **B. juncea** COSS. おぼがらし

Carex breviculmis var. *leucochlora* T. ITO, l. c. I, p. 313 (1908) = *C. b.* var. *l.* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo X, p. 320 (1896) = **C. breviculmis** R. BR. あをすげ

Carex breviculmis var. *puberula* T. ITO, l. c. I, p. 313 (1908) = *C. b.* var. *p.* MAKINO, l. c. X, p. 320 (1896) excl. syn. = **C. b.** var. **fibrillosa** KÜK. はまあをすげ

Coix Lachryma-Jobi var. **Toomuki** (SIEB.) T. ITO, l. c. V, p. 660 (1911)—HONDA, Nom. Pl. Jap. p. 418 (1939) = *C. Lachryma* var. *Toomuki* SIEBOLD, Syn. Pl. Oec. Jap. p. 10 (1830) はとむぎ

Cynanchum sub lanceolatum var. *album* (FR. & SAV.) T. ITO, l. c. II, p.

1034 (1909) = **C. Franchetii** NAKAI しろばなのかもめづる

Cynanchum sub lanceolatum var. *macranthum* (FR. & SAV.) T. ITO, l. c. II, p. 1034 (1909) = **C. macranthum** NAKAI おぼばなのかもめづる

Daphne odora var. *kiusiana* (MIQ.) T. ITO, l. c. VII, p. 149 (1916) = **D. kiusiana** MIQ. こせうのき

Pandanus odoratissimus var. *liukiensis* (WAHRB.) T. ITO, l. c. VI, p. 908 (1912) = *P. o.* var. *l.* (WAHRB.) KANEHIRA, Formos. Trees, ed. 2, p. 63 (1936) = **P. tectorius** var. *liukiensis* WAHRB. あだん

Pennisetum compressus var. *viridescens* (MIQ.) T. ITO, l. c. I, p. 316 (1908) = **P. alopecuroides** var. *viridescens* OHWI あをのちからしば

Peristylus viridis var. *bracteata* T. ITO, l. c. I 3. 314 (1908) = **Coeloglossum viride** var. *bracteatum* RICHT. あをちどり

Prunus communis var. *viridis* (SIEB.) T. ITO, l. c. I, p. 314 (1908) = *P. domestica* b. *Awosumomo* SIEBOLD, l. c. p. 68 (1830) あをすもゝ

Ranunculus trichophyllus var. *longifolius* T. ITO, l. c. III, p. 394 (Mart. 1910) = *R. t.* var. *l.* (ROSSM.) KOIDZ., Pl. Sachal. NAKAHARAN. p. 64 (Mai. 1910) excl. syn. = **R. pantothrix** var. *submersus* NAKAI うめばちも・からふとばいくわも

Rhamnus decipiens T. ITO, l. c. III, p. 679 (1910) p.p. = **R. Buergeri** MIQ. こばのくろうめもどき

Tarenna subsessilis T. ITO, l. c. V, p. 291 (1911)—HONDA, l. c. p. 323 (1939) = *T. s.* OHWI in FEDDE, Rep. Sp. Nov. XXXVI, p. 58 (1934) = *T. s.* HOSOKAWA in Journ. Tropic. Agric. VI, p. 206 (1934) しまぎよくしんくわ

Thea lutchuensis T. ITO, l. c. VII, p. 270 (1916) = *T. l.* (T. ITO) MATSUMURA, Ind. Pl. Jap. II-2, p. 361 (1912) = **Camellia lutchuensis** T. ITO (1899) ひめさざんくわ

Trillium Tschonoskii var. *Smallii* (MAXIM.) T. ITO, l. c. I, p. 1300 (1908) = **T. Smallii** MAXIM. えんれいさう

Ulmus scabra var. *typica* (MAXIM.) T. ITO, l. c. p. 127 (1908) excl. syn. = **U. laciniata** MAYR あつに

Vigna sinensis var. *sinensis* f. *bicontorta* (DURIEU) T. ITO, l. c. IV, p. 804 (1910) = *V. b.* DURIEU (1869) = *V. Catiang* var. *sinensis* f. *contorta* MATSUMURA in Bot. Mag. Tokyo XVI, p. 93 (1902) = *V. s.* var. *c.* NAKAI in Bot. Mag. Tokyo XXXVIII, p. 267 (1924) = *V. s.* forma *b.* MAKINO in Journ. Jap. Bot. VIII, p. 18 (1932) = **V. sinensis** forma *contorta*. (MATSUMURA) OKUYAMA, comb. nov. めがねささげ